

BASF、Midea(中国)の給湯器向けに、耐久性の高い プラスチック製の水混合弁を開発

2009年4月23日

- 「ウルトラミッド®」を使用し製造工程数を削減、コストと不良率を低減
- 飲料水規格の国際基準にも準拠

お問い合わせ：
BASF ジャパン株式会社
大倉 真紀
TEL: 03-3238-2341
FAX: 03-3238-2514
maki.okura@basf.com

BASF(本社:ドイツ ルートヴィヒスハーフェン)はこのほど、Midea Bathroom Electric Appliance との協業により、安全性と耐久性に優れたプラスチック製の給湯器向け水混合弁の開発に成功しました。

現在、市場の大半の水混合弁は、真ちゅう製です。真ちゅうの代替材料としてエンジニアリングプラスチックを使用することで、水混合弁では約70%の軽量化を実現することが可能です。また、エンジニアリングプラスチックのショット射出成形を使用することで、金属弁での生産工程が10工程以上不要となるため、メーカー側のコストは大幅に削減されます。成形プロセスは比較的容易な技術であり、また工程が短縮されることにより、欠陥率を低く抑えることが可能となります。

BASF のエンジニアリングプラスチック「ウルトラミッド®A3EG7 UN(BK)」は、耐熱湯性、熱安定性、強度、耐クリープ性が極めて優れた特性を持ち、真ちゅうの代替材料に適しています。また、飲料水規格の国際基準にも準拠しています。

Midea の海外研究開発担当チーフエンジニア、ウー・リーピン氏は次のように述べています。

「中国の BASF のエンジニアリングプラスチックチームは、プラスチック製水混合弁の開発過程で、豊富な技術支援を提供してくれました。これには、実現可能か

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所: 〒102-8570
東京都千代田区紀尾井町 3-3
TEL: 03-3238-2341
FAX: 03-3238-2514
<http://www.japan.basf.com>

を見極める数カ月間にわたる予備調査や、成形試験、サンプル試験が含まれました。BASF の製品は、水混合弁に必要な条件を完全に満たしており、私たちは、両社の協力体制を他の分野にも拡大することを期待しています」。

BASF のアジア太平洋地域エンジニアリングプラスチック担当グループバイスプレジデント、ハーマン・アルトフは次のように述べています。

「熱可塑性プラスチックには、熱伝導率の低さや機能面での統合性、設計の自由度があり、衛生用品市場の多くの分野で金属に取って代わる材料となり続けることでしょう。今後も、エンジニアリングプラスチックが水周りの用途で新たな市場を切り開くと期待しています」。



【写真】「ウルトラミッド®A3EG7 UN (BK)」でつくったプラスチック製の給湯器向け水混合弁

■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は、「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標語に掲げる世界の化学業界のリーディングカンパニーです。製品ポートフォリオは、化学品、プラスチック製品、高機能製品、農業関連製品、ファインケミカル製品、石油・ガスから構成されています。信頼に応えるパートナー企業として、あらゆる業界のお客様のさらなる成功をサポートしています。BASFは、高付加価値製品と高度なソリューションの提供を通し、気候保全やエネルギー効率の向上、栄養、モビリティの改善などの世界的な課題の解決に重要な役割を果たしています。2008年は620億ユーロ以上の売上高を計上、2008年末時点での従業員数は約9万7,000人です。BASFのホームページアドレスは、www.basf.com、BASF ジャパンのホームページアドレスは、www.japan.basf.comです。